



情報系国際会議でのユニークなニューパーティーの様子。海外14カ国から260人が参加

世界から集う 人や企業の架け橋に 着実な実績重ねる沖縄 MICE

沖縄県は00年の九州・沖縄サミットを契機に、国際会議や学会、企業ミーティング、報奨旅行等の誘致に積極的に取り組み、16年は1177件のMICEが開催された。一方で、施設規模の制約等から大規模な会議や国際展示会等を十分取り込めず、地元経済界から大型展示場を備えた新たなMICE施設の整備の要望が出ていた。

そこで県では、本島東海岸に位置する中城湾港マリンタウン地区に最大3万㎡の展示場や複数の中小会議室を備えた大型MICE施設の整備計画を進めている。整備に向けた取り組みは12年度にスタート。16年度には基本計画が策定された。一連の事業は沖縄振興特別推進交付金を活用して実施され、現在、需要推計や収支見通しの精査が行われている。すでに19件の大型展示会および15件の大型コンサートの主催者等から大型MICE施設の利用意向が示され、学会やインセンティブ旅行も含めた需要予測に基づくと開業後早期の黒字化が見込まれる。

新たな施設整備を機に、これまで観

光事業の延長で取り扱ってきたMICEを、県全体の産業振興につなげることができるかが成功の鍵を握る。具体的には、経済的・社会的効果の高い国際会議の誘致、MICEから派生するさまざまなビジネスの取り込み、高度人材育成など国際MICE都市となる上での課題は多い。特に大型展示会や国際商談会開催については、行政によるインフラ整備に加え、産業界によるソフト面での戦略的対策が不可欠となる。

このため県は、17年5月に改定した沖縄21世紀ビジョン基本計画でMICEを沖縄経済成長のプラットフォームとして新たに位置付け、沖縄県アジア経済戦略構想などの産業振興と連動したMICE振興策を展開し、アジア経済の活力を取り込んでいくこととしている。

横断的ネットワークを設立

また、県は17年を「沖縄MICE“躍進(やくしん)”元年」と位置付け、7月には沖縄MICE振興戦略を策定した。今後10年のMICE振興の目標や産業界に

よるMICE活用の方向性などを具体的かつ体系的に取りまとめた初めてのMICE長期戦略。さらに産学官の関係機関約150団体で組織された沖縄MICEネットワークを設立。MICE誘致から受け入れ体制強化までさまざまな課題解決に取り組む。3月には同ネットワークと協働し、MICEブランドロゴを発表。沖縄の海の色と島々をシンボリックに表したシンボルデザインは、ひらめきやアイデアが新たな価値を創造するとの思いが込められている。

今後、日本や世界から集う人、モノ、情報、企業の架け橋となり、アジア太平洋地域の持続的発展に貢献する沖縄MICEから目が離せない。



中城湾港マリンタウン地区に整備が進む大型MICE施設の完成イメージ(沖縄県HPより、基本設計前のイメージで設計後に変更する可能性がある)



OKINAWA Japan Where inspiration meets

いま世界のビジネスは、^{マイス}MICEで満ちあふれています。
それはいつものオフィスから離れた場所で行う
ミーティング、会議、報奨旅行、学会、展示会などの総称で、日本でも盛んに開催されています。

その開催地に、沖縄を。
日本とアジアの間にあるこの島は、国を、人を、英知をつなぎ、
新たな価値を創造する架け橋として役割を果たしてきました。
そしていま沖縄は、あなたのビジネスを未来へとつないでいきます。

非日常の空間で柔軟な発想を、心躍るひらめきを。
ビジネスに変化をもたらす風を沖縄で感じてみては。

事実、この島でのMICE開催は年間1000件以上。
MICEを迎え入れる環境は万全です。そして今なお進化を続けています。
沖縄は、あなたのビジネスの力になる。

ビジネスが、新しい閃きと出会う日。 OKINAWA MICE

